

2019年度 幸町区自主防災会 避難所運営訓練の実施

— 避難所運営に大切な避難者役割分担について —

日 時：令和元(2019)年7月28日(日) 9:00～11:30

場 所：愛知県稲沢市幸町区集会所

主 催：幸町区自主防災会

参加者：幸町自主防災会会員86名(子供5名、大人81名)

講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士

防災アドバイザー 広瀬 一行

ファシリテーター：3名

森 千代子(副理事長)(兼 研修委員長)

高木 吉貴(防災士)

阿部 健二(理事)(兼 事務局長兼広報委員長)

裸祭りで有名な、名鉄「国府宮駅」を降りて、南へ15分ほど線路傍と広々とした田園風景を見ながら歩き、その先に広がる住宅街の一角に今日の「避難所運営訓練」会場となる真新しい1戸建ての「幸町区集会所」へ辿り着くことができました。

午前9時には、幸町区自主防災会会員の81名の方に更に5人のお子さんが加わり、愛知県防災訓練基準の8班(①総務班・②広報連絡班・③食料・物資班・④施設管理班・⑤要配慮者支援班・⑥保健・衛生班・⑦屋外支援班・⑧ボランティア班)に分かれ、二部屋からなる広いスペースがぎっしりと会員によって埋め尽くされました。

その他に避難所の役割分担に関連し、進行役、或いは、アドバイザー役の稲沢市危機管理課 鈴木主幹ほか2名、防災ボランティア稲沢 永野副会長ほか2名、地元NPO法人愛知県防災士会 広瀬防災アドバイザーほか2名が加わり、個々の班ごとに「避難所で起こりうる具体的提案問題」に対して、どのように班員は、考え対処するのか、また、課題・問題点についても意見を出し合いました。



間仕切りの無い部屋で意見交換をしたことから、お互いの声が干渉し合い声のボリュームは徐々に上がり、冷房を22度に設定していても熱気は増すばかりでした。

スケジュール的に、班の中で持ち時間1時間内で数種類の具体的提案問題を討議し、まとめて発表するまでに至り、各班長さんによる取りまとめ発表がなされました。

発表の中には、普段からご近所との付き合いを大切に、幸町区全住民の見える化が進むことを願っていると本心から申していました。

そして、班長さんの取りまとめ結果発表が終わる都度、広瀬防災アドバイザーから「これが答えということでは、無いのですが」と前置きをされ、それぞれの班ごとにコメントをされました。

最後にNPO法人愛知県防災士会、市の危機管理課及び防災ボランティア稲沢の代表者から、それぞれ挨拶があったのちに、参加者の皆さんへ「防災お土産」を手渡し、2時間に亘る有意義な「稲沢市幸町区 避難所運営訓練」を終えることができました。

今回の「避難所運営訓練」におきまして、今後、幸町区全住民の方に対し八つの班の情報並びに行動規範の共有がなされ、仮にどの班に就かれても対処できるような体制を整えることやマニュアルにして各家庭に配布されることが望まれます。

また、この様に幸町区自主防災会の縦糸に稲沢市の危機管理課、防災ボランティア稲沢及びNPO法人愛知県防災士会という二つの異種防災ボランティアの横糸による防災・減災という布が編まれていくという実感は、あまり例を見ないことであり、今後も一人でも多くの尊い命を守り、助けたい人を助ける自助による幸町区の皆様による防災・減災にかけるお手本の輪がいろいろな形で各家庭に広く浸透されていくことを願ってやみません。

